



お 知 ら せ

【関東ブロック社会資本整備重点計画 事務局】
国土交通省 関東地方整備局 企画部 企画課

「防災・減災、生産性革命、観光の推進」 についてのパネル展示のお知らせ

防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策に代表される「自然災害からの国民の安全・安心の確保」や、「生産性革命」の着実な推進、我が国の成長戦略・地方創生の柱である「観光施策」の推進については、本年も重点的に取り組んでいるところです。

今般、「安心・安全の確保」、「生産性の向上」、「観光による地域の振興」をもたらす社会資本のストック効果について、分かりやすくて的確に伝えられるよう見える化し、一般の方々への理解促進を図るため、パネル展示を実施いたします。

開催場所一覧

会場	場所 (県・市町村)	開催日程案	対象
北千葉導水ビジターセンター	千葉県 柏市	9月3日(火)～9月10日(火)	一般
道の駅「いちかわ」	千葉県 市川市	9月12日(木)～9月19日(木)	一般
龍Q館	埼玉県 春日部市	9月25日(水)～10月2日(水)	一般
コクーン2	埼玉県さいたま市	10月5日(土)～10月6日(日)	一般
東京臨海広域 防災公園	東京都 江東区	10月8日(火)～10月15日(火)	一般
横浜第二合同庁舎	神奈川県 横浜市	10月18日(金)～10月25日(金)	一般
荒川知水資料館 アモア	東京都 北区	10月30日(水)～11月6日(水)	一般

未来につなぐインフラ政策(国土交通本省HP)
～国土交通省が取り組むインフラ政策をご紹介～

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/point/sosei_point_tk_000028.html

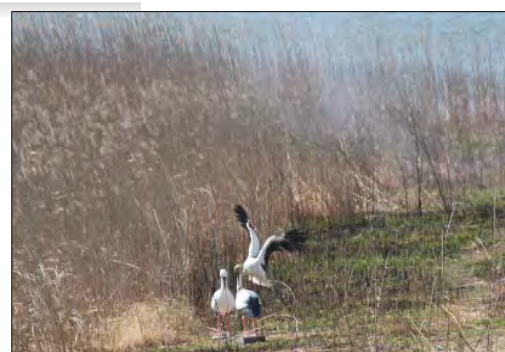


渡良瀬遊水地

湿地環境の保全・再生により 地域振興にも寄与

「湿地の保全」、「湿地の賢明な利用」を図るため、治水機能の向上と継続的な自然環境の保全及び様々な利活用を促進

- ✓ 2002年6月、具体的に湿地環境の保全・再生を進めるため、学識経験者、関係市町、地域住民代表との討議を開始
- ✓ 2017年7月、渡良瀬遊水地は国際的に重要な湿地であることから、ラムサール条約湿地に登録
- ✓ 近隣の市町が協働してコウノトリをシンボルとした多様な生物の生息可能な自然環境の保全・再生の推進と、賑わいのある地域振興・経済活性化方策を実践



【デコイと戯れるコウノトリ】



【おさかなワイワイ大作戦】

2018年5月実施

湿地保全・再生計画に基づき整備した環境学習フィールドでの活動



【渡良瀬遊水地ヨシ焼き】

2019年3月実施

渡良瀬遊水地のヨシ原（本州最大）の8割を焼き、当日来訪者は約9千5百人





ハッ場ダム建設事業

ハッ場ダムインフラツーリズムの取り組み

ダムを基軸とした観光地域づくりを推進 官主導から地域主導へ

- ✓ ダム建設のあらゆる場面を観光資源と捉え、多くの人にダム現場に来てもらい、ダム完成後の再訪につなげる仕組みづくりを実施
- ✓ ダムの見学会は、取り組み開始前から約20倍の約5.5万人が参加



ダム建設段階の地域振興・広報



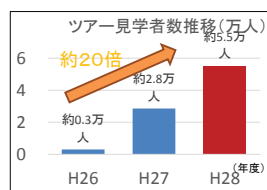
「やんばコンシェルジュ」による
工事現場案内を実施



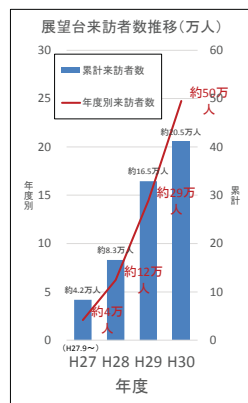
「やんば見放台」
いつでも無料の展望台を設置



「ハッ場ダムファン倶楽部特別見学会」など多彩な見学会を実施
リピーターを確保



H30はH29の2倍に迫る約5.5万人がツアー参加



累計来訪者数50万人突破(H31.4)

ダム完成後を見据えた地域振興・広報



地元在住ガイドが案内する
地元主催支援のプレミアム見学ツアー



地元が設立した民間会社によるツアー



商品開発・見学会改良などのプロジェクト
地域の未来に向けて産官学連携による団結



周辺地域店舗との連携
ダムカード提示で、割引特典



道の駅「ハッ場ふるさと館」
道の駅などで割引サービス

「やんばツアーズ2019」
充実した目的別ツアーを用意し周辺地域のにぎわいを活かす地域活性化を促進

小松川地区高規格堤防(東京都)

安全な都市をつくり 避難地や地域交流の拠点としても活用

高規格堤防はまちづくりと共同で実施して、安全で快適な空間を創出

- ✓ 荒川沿いに工場や木造住宅等が密集し、地盤の低かった「ゼロメートル地帯」が、市街地再開発事業と併せた高規格堤防整備により安全で快適なまちに。



市街地再開発事業と共同で実施した
小松川地区高規格堤防

避難地や地域交流の拠点としても
活用される高規格堤防

整備前



木造住宅等が密集していた整備前の小松川地区



ゼロメートル地帯を守っていた高さ約10mの荒川の堤防



整備前は木造住宅等が密集し、道路整備が遅れ、生活環境が悪化

整備後



高規格堤防整備と併せて広大な公園や中高層住宅等が整備



高規格堤防の整備によって市街地側は堤防とほぼ同じ高さに盛土



まちづくりとあわせて、公共施設等も整備



高規格堤防上の広大な公園は、災害時に約20万人の避難場所、防災拠点として活用



地域で自主的に防災訓練を実施



地域の交流が促進され、住民に憩いと安らぎを提供





【観光放流】

平成14年度から実施。
累計で約90万人の方が見学。

宮ヶ瀬ダム(神奈川県)

宮ヶ瀬ダムが地域振興に寄与 ～ダム湖周辺に年間約200万人が来訪～

魅力あるインフラ施設の開放、ダム周辺観光拠点整備

- ✓ 宮ヶ瀬ダム湖周辺は、約200万人以上が来訪
(平成26年度 河川水辺の国勢調査による)
- ✓ 魅力ある公共施設・インフラの大胆な開放
- ✓ 工事跡地を整備したダム湖周辺の観光拠点整備



宮ヶ瀬ダムの湖面は、カヌー等のレクリエーション、遊覧等で利用されている。

ダムでは、観光放流、エレベータの開放、管理階段開放等を実施

ダム湖周辺の観光拠点は、地域振興に大きく貢献



ダム堤体内のエレベータを一般開放し、ダム上にも移動が可能。



ダム管理階段の開放。また、工事で使用したインクラインを観光用に活用。



【宮ヶ瀬エリア】
多くの観光客が訪れる「水の郷商店街」



【ダムサイトエリア】
ダムに隣接する県立公園では、年間を通して様々なイベントを実施。



大岡川統合河川環境整備事業

運河でふれあう・魅力あるYOKOHAMA☆
～地域のにぎわいの創出～

大岡川水系で棧橋等の親水施設を整備することにより地域の
活性化やにぎわいの創出に寄与

- ✓ 平成12年に神奈川県で「大岡川河川再生計画」を策定し、沿川のまちづくりと一体となった親水施設の整備等を位置付けた。現在はこの計画を踏襲した「横浜市区かわまちづくり計画」により整備を実施
- ✓ 9地区で拠点整備を計画しており、平成31年1月までに4地区で棧橋等の親水施設の整備が完了
- ✓ 整備された親水施設では、河川を利用したイベント等のレクリエーション利用などに活用されており、今後も魅力ある水辺づくりを進めていく



黄金町周辺地区(大岡川桜棧橋)
水辺の利用状況

親水施設利用者数の増加



親水施設整備(予定)箇所
(H31.1時点)

国営ひたち海浜公園

東関東自動車道水戸線

茨城空港と高速道路が生み出す新たな観光リング

現在 now



将来 future



■東関東自動車道水戸線 開通区間(茨城空港北IC～鉾田IC)



東関東道水戸線 (潮来IC～鉾田IC間)の整備



■空港を核とした高速道路の 観光リングを形成

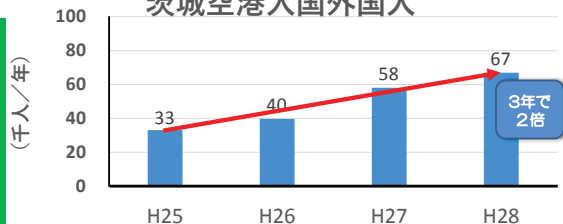


●：主な観光地

インフラ

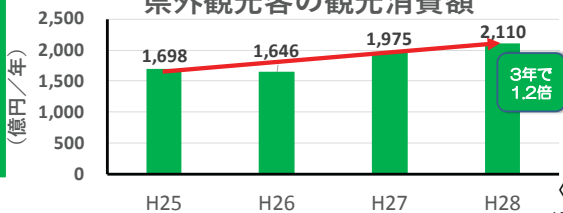
地域

茨城空港入国外国人



〈バス会社〉

県外観光客の観光消費額



〈市観光協会〉

※茨城県HPより

水戸線が開通すれば
潮来方面、さらに千
葉～東京方面への
利用が期待できる。

外国(中国、台湾)か
らのお客様が増加。
開通により各施設で
の消費額増加に期待。

茨城空港を利用する外国人旅行者が年々増加。旅行者は空港からバスを利用し、県内の観光地へ移動

東関東自動車道水戸線の整備により、県内のミッシングリングが解消され、茨城空港より南部の県内観光地への周遊ルートが形成

移動時間の短縮により、観光客の滞在時間・消費額の増加に期待



バスタ新宿 日本最大のターミナル誕生

Shinjuku Expressway Bus Terminal

過去 before



現在 after

インフラ



鉄道上空に官民連携で
人工地盤を構築し
国道20号と鉄道の結節点となる
ターミナルを建設



平成
28年
4月4日
完成

利便性



〈利用者の声〉

冬や雨の日、
路上でバスを待つのはつら
かったが、
とても楽になった。



整備
後の
状況

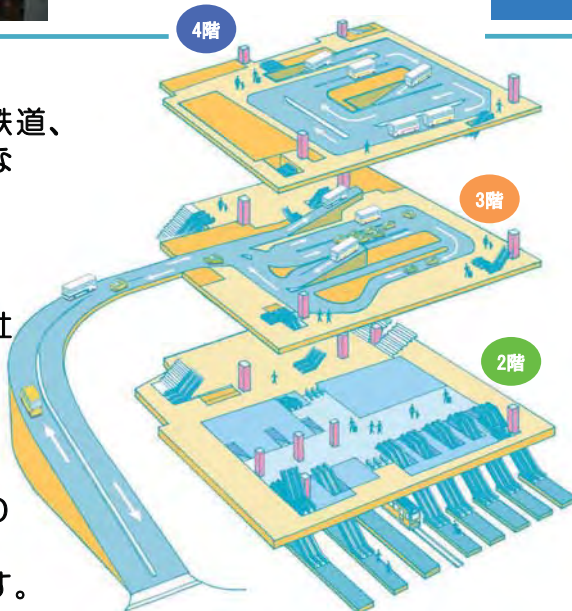
4F 高速バス待合室

分散していた高速バス乗降場を
19箇所から1箇所に集約し、鉄道、
高速バス、タクシーのスムーズな
乗り換えが可能。

高速バス一日最大：1720便
停車場数：15バース
運行事業者数：117社

日本最大級の交通結節点が
インバウンドを含む観光、帰省、
業務のための移動をサポート。

新宿から全国39都府県、300
都市へのネットワークにより、
“訪問地の分散化”に寄与します。



3F タクシー乗降場



2F 駅施設、歩行者広場





中部横断自動車道

農産物の販路拡大等に寄与する 中部横断自動車道

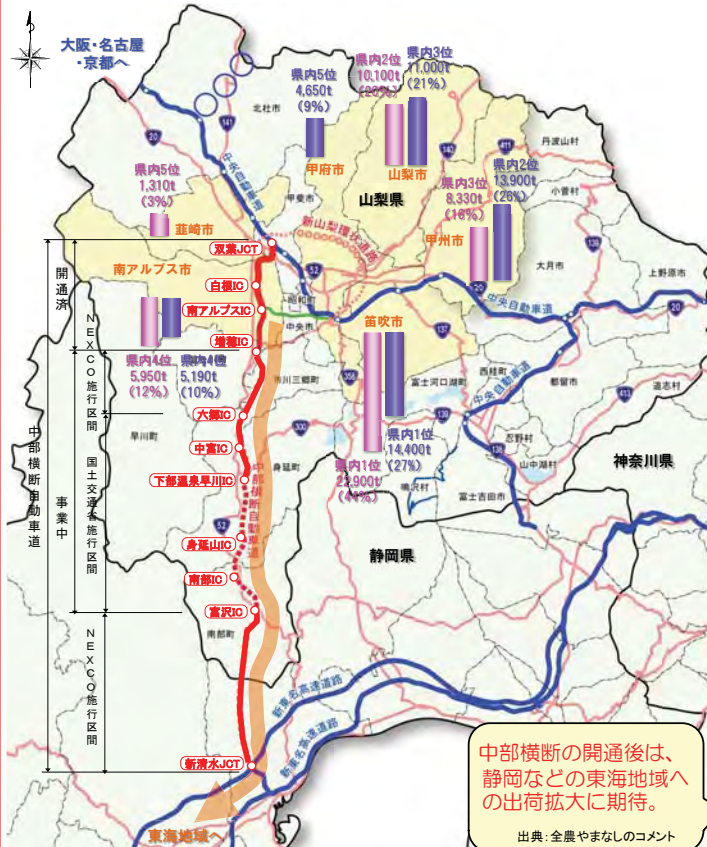


農産物

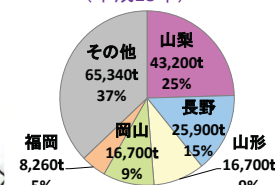
～ 東海地域への販路拡大 ～

企業立地

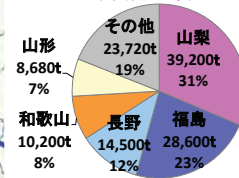
～ 開通区間の雇用拡大 ～



ぶどう生産量 (平成28年)



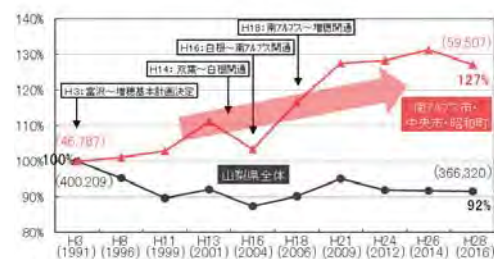
もも生産量 (平成28年)



出典：山梨県「やまなし県のあまし2015」



沿線自治体の従業者数の推移 (平成3年を100%)



厚木の製造拠点を拡大の検討の結果、中央道を介して連絡が良かったこと、中部横断自動車道の計画があったことなど、総合的に判断して立地を決定。

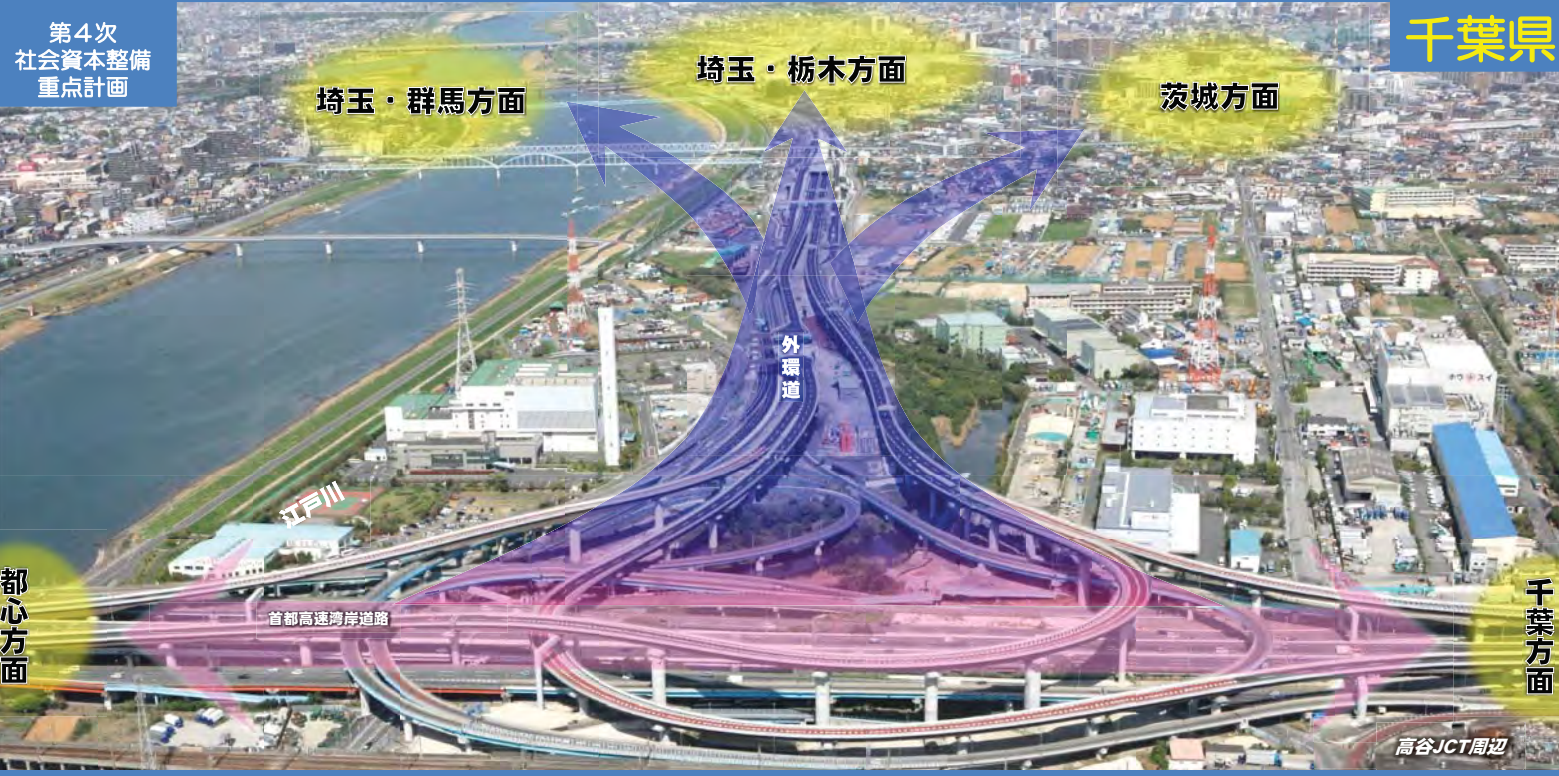
出典：やまなし産業立地コミッション



< 部分開通後 (南アルファス市白根IC周辺) >

中部横断自動車道の開通をにらんで、沿線市町村では企業立地が進み、平成3年から25年間で、**従業者数が27% (約1.3万人) 増加**

山梨県産のぶどう、ももは、生産量全国1位
現在、主要な出荷先は東京であるが、中部横断自動車道開通により、**東海地域への販路拡大に期待**

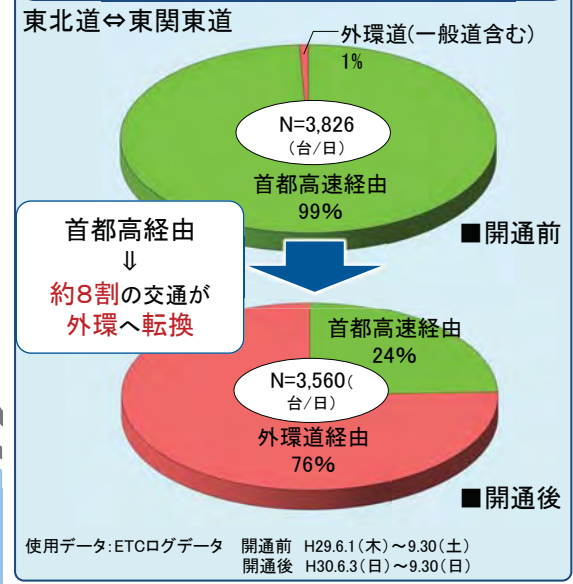


外環道で都心の移動をスムーズに！ 首都圏の経済活動をバックアップします。

開通前後の経路と渋滞状況の変化

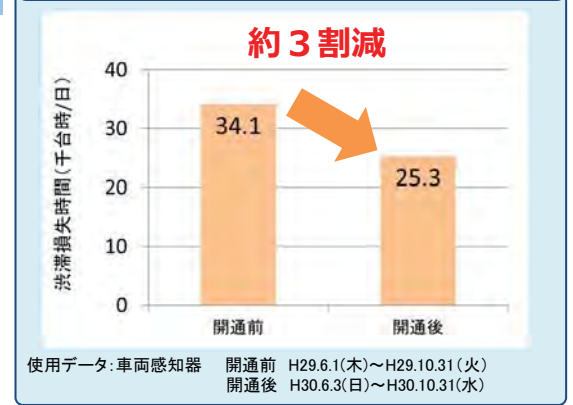


① <<東北道⇄東関東道>> 経路分担率の変化



- ① 埼玉・千葉間(東北道⇄東関東道)の交通は、都心(首都高)を経由していたが、約8割の交通が外環道へ転換。
- ② 外環道千葉区間の開通や堀切JCT～小菅JCT及び板橋JCT～熊野町JCTの4車線化により、中央環状内側の首都高(中央環状含む)の渋滞損失時間が約3割減少。

② 中央環状線の渋滞状況の変化





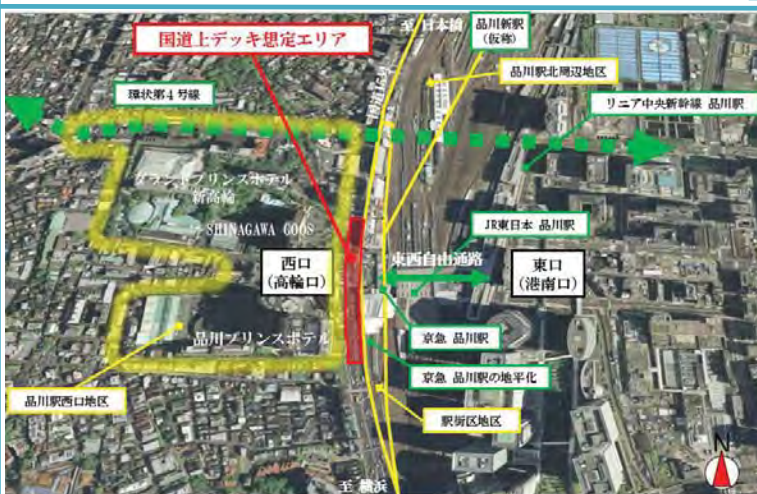
未来の品川駅前空間（西口）計画

～国道15号・品川駅西口駅前広場「事業計画」～

現在 now



将来 future



品川駅周辺地域は、新たな国際交流拠点の形成に向けて、道、駅、まちが一体となった都市基盤の整備を進め、「世界の人々が集い交わる未来型の駅前空間」を目指します

国道15号・品川駅西口駅前広場の整備方針 (H29.2.3 国土交通省、東京都)

ポテンシャル

- 羽田空港との高いアクセス性
- リニア中央新幹線の整備
- MICE・宿泊施設等の機能集積
- 再開発による新たなまちづくりの進展

課題

- 駅・街の低い連絡性
- 鉄道・バス等の乗り場の分散
- 駅前広場や歩行者の空間不足
- 国道15号の交通の輻輳

道路上空を活用し、日本の顔となる「世界の人々が集い交わる未来型の駅前空間」を創造

立体道路網を構築し、道路上空を活用した整備方針のイメージ図

- ① 連絡道路、アトリウム広場
⇒ 歩行者と車の空間を分離
⇒ 駅と街の回遊性を向上
- ② 交通ターミナル
⇒ バス、タクシー乗り場を集約
⇒ 国内外旅行者に観光情報の発信
- ③ 民間商業施設
⇒ にぎわい空間を創出

民間からの提案を踏まえた官民連携事業で実現

事業スケジュール

リニア中央新幹線周辺の再開発事業等のスケジュールを踏まえながら、道・駅・まちの一体化を実現していきます。

第1ステップ

【国道15号基礎整備事業】

- ・事業着手
(地下鉄延伸計画との調整)
- ・鉄道関連事業
・京浜東北線立体交差化の事業着手
・高層フードコート駅開業 (2020年予定)
- ・周辺再開発等
・駅南地区、西口地区、北周辺地区の事業着手
・環状4号線の事業着手

第2ステップ：リニア開業時(2027年)を目指

【国道15号基礎整備事業】

- ・2F上空デッキの北側部分の完成
- ・1F駅前広場拡張の完成
- ・鉄道関連事業
・リニア中央新幹線開業、京浜東北線立体交差化の完了と周辺再開発等
・北周辺地区の一部まちづくり
・西口地区の一部完了
・環状4号線の一部開通

第3ステップ

【国道15号基礎整備事業】

- ・2F上空デッキ南側部分の完成
- ・複合ターミナルの完成
- ・周辺再開発等
・北周辺地区の完了
・西口地区の完了
・駅南地区の完了
・環状4号線の供用開始



2020 年東京オリンピック・パラリンピック までに太平洋岸自転車道をつなぐ取り組み。



太平洋岸自転車道 路線統一コンセプト

- ①安全にルートを走行できるよう、十分に配慮していきます。
- ②迷わずにルートを走行できるよう、十分に配慮していきます。
- ③どこでも「太平洋岸」を感じられるよう、統一的な情報発信をします。

- 自転車道、矢羽根等、自転車走行環境の整備を進め、太平洋岸のルートを「つないで」いきます。
- 交差点の右左折部や道路分岐部等に案内看板を設置し、太平洋岸のルートを「わかりやすく」していきます。
- 官民連携のもと、「統一ロゴ」「全線に渡る統一的なホームページの作成」「サイクルステーションの認定」など全線1,400kmのルートについて「統一感」を感じられる取組をします。

路線統一コンセプトに基づく 走行環境の実現

●ハード面からの取組

路面表示

案内看板

●ソフト面からの取組

統一ロゴの決定

路線MAP・HPによる広報

官民連携による取組

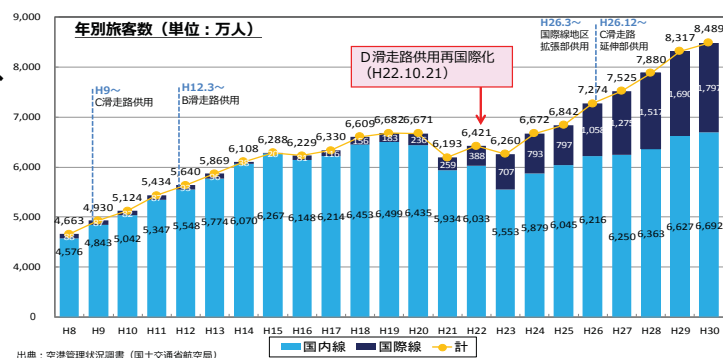
東京国際空港（羽田空港）整備事業

機能強化で日本の成長を支える ～急増する国際線旅客への対応～

飛行経路の見直しに必要な航空保安施設、誘導路や駐機場、国際線・国内線地区を結ぶトンネル（際内トンネル）を整備

- ✓ 羽田空港では2010年の再国際化以降、2018年時点で国際線旅客数は約4.6倍に増加
- ✓ 増大する訪日外客の受入、地方創生等の観点から2020年までに空港処理能力を約4万回拡大するため、必要な施設整備と観光対策を実施
- ✓ 際内トンネルの整備により、国際線・国内線の乗り継ぎ経路の拡充等により利便性が向上

【現场上空を飛ぶ航空機】



羽田空港機能強化による経済波及効果の試算結果

- ◇経済波及効果（生産額の増加） **6,503億円／年**
- ◇雇用の創出 **4.7万人**

※国交省試算



インフラツーリズムの推進(第二海堡)

新たな観光資源の創出に向けて ～第二海堡上陸ツアーの実現～

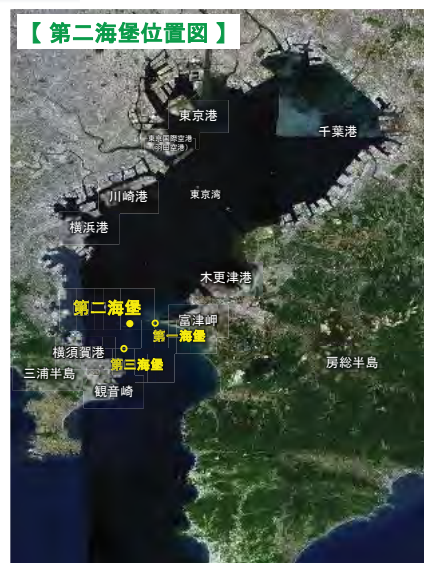
歴史的遺産である第二海堡を一般公開し、ツアーを実施することで
地域振興に活用

- ✓ 近年、インフラそのものが地域固有の観光資源として注目され始め、インフラツアーへの取り組みが年々充実してきている
- ✓ 「明日の日本を支える観光ビジョン」の施策に位置づけられた「魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放」の取り組みに向けて、官民連携による第二海堡上陸ツアーの実現を推進
- ✓ 2018年度には旅行会社から企画提案を募集しトライアルツアーを実施、延べ1,024名が参加

【トライアルツアー実施状況】



【第二海堡位置図】



【1907年(明治40年)に撮影された第二海堡】

明治時代から大正時代にかけて、首都防衛のための海上要塞として建設



官民連携による 国際クルーズ拠点の形成(横浜港)

クルーズ新時代の実現 ～訪日クルーズ需要の増大に対応～

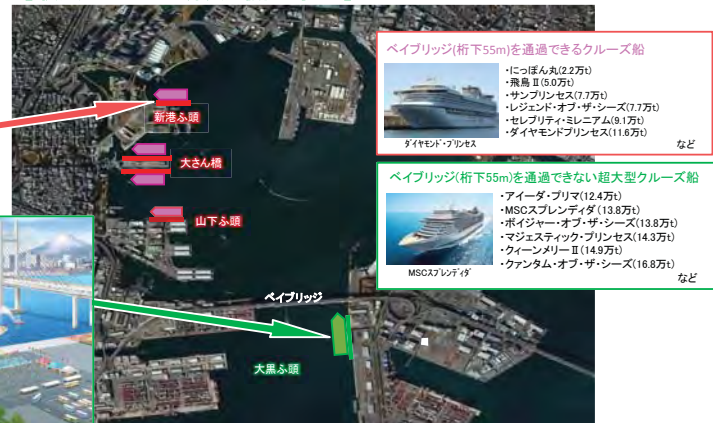
クルーズ船の受入環境の整備を推進 官民連携による国際クルーズ拠点の形成

- ✓ 近年、訪日外国人旅行者数は大きく増加しており、クルーズ船による訪日客も増加傾向（2018年のクルーズ旅行者数は244.6万人、旅行消費額は1,034億円）
- ✓ 訪日クルーズ旅客の2020年に500万人という目標達成に向け、官民連携によるターミナル整備等を推進
- ✓ 横浜港では、大さん橋だけでは増加するクルーズ船に対応できなくなってきたことから、官民連携による新港ふ頭の再整備や山下ふ頭を活用し対応するほか、横浜ベイブリッジを通過できない大型クルーズ船については、大黒ふ頭の自動車船用岸壁を活用できるよう対応

【訪日外国人旅行者の推移】



【横浜港のクルーズ船受入機能の強化】



横浜港国際海上コンテナターミナル 再編整備

我が国における国際競争力の強化 ～国際基幹航路を維持・拡大～

国際基幹航路の我が国への寄港を維持・拡大 大型化するコンテナ船への対応

- ✓ 基幹航路に就航する大型船の入港や、増加するコンテナ貨物の取扱いに適切に対応し、我が国に寄港する基幹航路の維持・拡大を図るため、コンテナターミナルの再編整備を行う
- ✓ 大黒ふ頭からコンテナ取扱機能に移転し、自動車取扱い機能を強化することにより関連企業の立地環境が向上
- ✓ AI, IoT 自動化など最先端の技術を活用したコンテナターミナルを整備し、生産性を向上

【横浜港への大型コンテナ船の入港】



【世界のコンテナ船の大型化】

